



シグナス新聞

鳥取看護大学
鳥取短期大学
鳥取新聞

鳥取県倉吉市福庭 854
電話 0858-26-1811
e-mail: shinbun@cygnus.ac.jp



特 報 シグナス新聞 再始動!!

4年ぶりの発行

装いも新たに

鳥取看護大学・鳥取短期大学新聞会は、2021年4月から4年にわたって活動を休止し、「シグナス新聞」も休刊状態にありました。このたび4名の部員を迎え、新聞会は再始動します。今年3月発行の第143号「卒業記念号」に続き、第144号「新しい風号」を発行いたします。



本紙のバックナンバーは付属図書館本館でご覧いただけます

本紙は1980年に「鳥取女子短期大学新聞」として創刊しました。2001年、男女共学化に伴い「鳥取短大新聞」に改称。2015年には鳥取看護大学の設立により「シグナス新聞」と名を改め、現在に至ります。

そして、本号は装いも新たに、A3判・フルカラーでの発行となりました。木のニューズやインタビュ企画など、充実した紙面構成でお届けします。45年の長きにわたる本紙の歩みはこれからも続きま



私立大学等経常費補助金の交付額が第1位に

鳥取短期大学・令和6年度

日本私立学校振興・共済事業団より「令和6年度 私立大学等経常費補助金交付状況」が公表されました。

私立大学等経常費補助金は、教職員数や学生数のほか、教育の質や財務状況等に応じて

傾斜配分されるものです。



NEW FACE ~新任教員紹介~

- ①所属 ②誕生日 ③出身地
- ④趣味 ⑤好きな食べ物
- ⑥座右の銘 ⑦特技
- ⑧学生のみんに一言



藤丸真穂先生

- ①短大 情報・経営専攻
- ②1月21日
- ③大分県
- ④漫画や本全般、散歩など、脳に刺激をくれるもの全般。

学生時代は東京03の飯塚さんのようなツッコミに憧れて、お笑いサークルに所属していたので、お笑いも好きです。（最近は見る暇がないですが…）

⑤トマトと豆腐です。



- ①短大 食物栄養専攻
- ④鳥取県の美味しいものを食べること、自然にふれること！
- ⑤美味しいもの全て（鳥取県は美味しいものに溢れていますね！）
- ⑥医食同源
- ⑦チェロ（普段は聴く専門ですが、時々弾きます…）
- ⑧4月からこの学校にきましたが、学生のみんさんが何かに一生懸命に取り組む姿がとても輝いてみえます。ぜひこのキャンパスで色々な経験をし、たくさん学びある学生生活を送ってください。

野口佳世先生



加藤典子先生

- ①看護大
- ②4月13日
- ③島根県松江市
- ④温泉めぐり、映画鑑賞
- ⑤和菓子（打吹公園だんごも大好きです）
- ⑥未来と自分は変えられる7特になし
- ⑧充実した大学生活を楽しみながら主体的に過ごしてください。少しでもお力添えができればと思います。



吉村純子先生

- ①看護大
- ②3月2日（翌日だったから、ひな祭りだったのに…）
- ③鳥取県米子市出身です。
- ④ドラマを観ること（生粋のドラマっ子）、お花を育てること。花を触っていると落ち着きます。
- ⑤果物全般
- ⑥何事も楽しむこと。
- ⑦スピード簡単料理（前の大学で、賞を取ったこともありま）
- ⑧大学生活で話を聞いてくれる人をつくること。楽しいことも、大変だったことも、悔しく思ったことも話せる人。聴いてくれる人。振り返ったら、いるといいよ。



東田貴恵先生

- ①看護大
- ②...
- ③鳥取県東部
- ④音楽鑑賞、読書（マンガ含む）、無の時間を作る
- ⑤美味しいもの、辛いもの
- ⑥なぜか成る、なぜかばならぬ、何事も、成らぬは人の為さぬなりけり
- ⑦話を聴くこと
- ⑧自分の目標に向かって頑張っている皆さんへ（教員一年目の自分にも）



横溝珠実先生

- ①看護大
- ②4月1日
- ③岡山県倉敷市
- ④野菜や果樹の栽培
- ⑤くだもの（特にスイカ）
- ⑥継続は力なり
- ⑦家事を高速ですること
- ⑧保健師は日ごろから地域を駆け回っていることから、仲間内ではその活動を「足で稼ぐ」と言います。地域の人々と出会い、つながり、共に考



- ①看護大
- ②3月8日
- ③鳥取県東伯郡湯梨浜町
- ④音楽鑑賞・聖地巡礼
- ⑤魚介類
- ⑥「速く」たつて、ゆっくりだつて、とにかく走り続けられれば辿り着ける場所がある」
- ⑦早起き
- ⑧自然豊かな恵まれたキャンパスで、自分の可能性を求め、沢山の人の出合いを大切にしてくださいね。学生生活は大変なこともあるかもしれませんが、一度きりの人生、自分らしさが発揮できるように「力は抜いて、手は抜かない」こんな人生を楽しんでいきますよ。



土井桂子先生

え、共に学び、創造すること、自分一人では成し遂げることができないことが解決できたり、人生で予想もできない新たな経験につながることもあります。地に足をつけてしっかりと歩める体力と知的好奇心を持ち、何にでもチャレンジしてください。自分の足で稼いだ経験は、きつと自分を支える力になるでしょう。



僕が鳥取女子短期大学に赴任したのは、昭和54年（1979年）のことです。当時、1年生は水泳の授業が必修で、50メートル完泳しなければならなかった。若手の教員が指導して、僕は食物栄養の学生を担当しました。なかなか完泳できない学生が2人いたのので、1週間ばかりで指導して、そのうちに仲良くなつてね。7〜8人の仲間たちも加わつて、いろんな話をした。

すると、今ひとつ打ち込むことがない、学校生活が面白くないという話になった。もしかしたら他の学生も同じことを考えているかもしれない。

みんなで学生生活を面白くするにはどうしたら良いのか？新聞でも作つて、みんなに聞いかけてみよう、ということになりました。

最初はガリ版で出して、み



いま交流センターが建っている場所には、かつて学生会館があつた。新聞会ができた年に完成した建物で、2階は

僕は土居裕美子先生・岡野幸夫先生にバトンタッチするまで35年間、70歳まで新聞会の顧問を務めたけど、その間に発行が途切れた年はなかった。部員は大勢入ってくれる時もあるが、地味な活動なので基本的にリクルートしないが入ってくれない。部員が2人の時もあつたけど、よく書いてくれました。山あり谷ありでも続けていくことは大事ですね。

新聞会メンバー以外の仲間とも協力したよ。入学・卒業記念号には各先生のイラストが描かれたものもある。新聞会メンバーではないけどイラストの上手な人がいて「私、イラストだけなら手伝う」と

文章を書くことが苦手だった学生も、新聞会に入ってから書けるようになりましたね。幼稚園の先生になった卒業生が、職場で書いた「園だより」などを送ってくれるけど、みんな上手いなあと思う。

僕にとつて新聞会は特別研究、ゼミナールのようなものでした。僕自身の生活もすごく豊かなものになりました。授業以外の活動が面白かったら、学生生活にも弾みが出るよね。

新婚の教職員の自宅に突撃取材したこともあったね。松本典子学長の自宅や、グロークルセンターの雛倉千恵子さんの自宅に行きました。雛倉さんは鳥取女子短大の3期生



言って、描いてくれました。4面の新聞も作ったけど、かなりの労力が必要ですね。ガリ版の時も全部自分たちで切って、和文タイプを打つ子もいた。

新聞会の歴代メンバーとは未だに付き合いがあるけど、大教室の授業だけでは、そんな長い付き合いにはなりにくい。文章が公になるから、僕は本言に厳しく指導しました。いまだに「修平先生は厳しかった」って言われる。**5W1H**をちゃんと入れて、話し言葉とは違うメリハリも必要だから、やっぱり新聞の文章は難しいですよ。かといって、あまりにも硬くしたら味ががない。

で、僕が来たときは付属図書館の司書だった。僕よりも長くここにいて、主みたい（笑）。
当時は短大だけだったからアットホームな感じでやれたけど、看護大が出来て、学生や教職員も増えて、なかなかそういう感じではやっていけなくなつたね。

新聞会の一環大きな役割は看護大と短大の交流を促進すること。普通に過ごしていたら、どうしたって一部の先生しか関わらないし、一部の学生しか知り合いにならない。同じ仲間にこんな個性的で面白い人がいるよと紹介する、それだけでも楽しい。

学生・教職員で絆研究室・絆美術館を訪れたことがある人は少ないと思うし、幼教以外の学生が附属ごども園へ行く機会はほぼない。それから図書館本館・別館は相互利用できるとかね。それらを伝えることは大事。寮生活も紹介したら面白いと思う。

これまで、新任の教職員が来られた時には紹介して、卒業記念号にはできるだけ大勢の教職員からのお祝いメッセージを掲載してきました。先生方は気楽に学生と話せる人が多いけど、普通だったら学長なんて話にくいよね。新聞会の特権でいろんな人に会いに行けるし、自分の感じた印象も書いて、皆さんも会いに行ってみませんか？ってね。

新聞会に所属すると、取材を通して字内にもいろんなこと、地域でもネットワークを作りやすい。

今は短大の学生4人で頑張っているけど、ぜひ看護大の学生も入部してほしいですね。期待しています！

煌めく花々、そして緑輝く季節へ。いいですね。どこか皆さんの澆漉さと重なります。

入学式にHなメツ
セージを贈りました。
覚えてくれています
か？

【Head】と【Hand】
専門知識と技能。習得のためには、結局学ぶことです。

【Healin】健康、自力で汗かいていますか。エレベーターではなく、極力階段を。

【Heart】心も鍛えること。挨拶、ゴミを拾う、時間厳守。こんな小事が案外、心

鳥取短期大学学長 松本典子



満開の桜とともに入学されたみなさん、その後もモクレンやハナミズキなどが次々と咲いて構内を彩ってくれていますが、気づいていきますか。慣れない学生生活のなか、新しい情報がたくさん入ってきて、大変だったことでしょう。ときには周囲の自然にも目を向けて、一息ついてください。

理事長・鳥取看護大学学長 山田修平

を正します。余裕ができたならボランテニア活動を。心がりフレッシュします。ポイントとは、全て自力行うこと。自分から学び、行動を起こすこと。そのコツは姿勢を正すこと。腰骨を立ててこらん。背筋をのばしてこらん。なになに気持ちりが前向きになります。そして皆さん自身の【Hope】を見定め、希望、夢に終わらせない力を身に付けることです。

こうした取り組みの中で、きつと素晴らしい【Human relation】人間関係がでます。フレッシュな緑の樹々から、どんな実が結ぶのか楽しみにしています。

たまには、理事長室学長室にも寄って下さい。

私たち新聞会の活動は顧問である土居裕美子先生・岡野幸夫先生の的確なアドバイス、激励によって支えられています。

シグナス新聞への投稿・取材依頼・ご意見等ございましたら、学生、教職員、

学外の方、どなたでもお気軽に新聞会まで御一報ください。シグナス新聞は、みなさんと作り上げる新聞です。

新聞会はコロナ禍の影響により、2021年の春か

ら活動を休止していました。当時、新年度号の発行に向けて編集作業を進めていましたが、発行には至りませんでした。原稿をご執筆いただいた皆さま、新聞を心待ちにしてくださいました皆さまに、心よりお詫び申し上げます。

そして143号「卒業記念号」、144号「新しい風号」の発行にあたり、原稿依頼・取材にご協力いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。

私たち新聞会の活動は、顧問である土居裕美子先生・岡野幸夫先生の的確なアドバイス、激励によって支えられています。

シグナス新聞への投稿・
取材依頼・ご意見等ござい
ましたら、学生、教職員、

編集担当

鳥取短期大学

食物栄養専攻

小泉穂高（二年生）

松田侑季（二年生）

里田明日香（二年生）

地域コミュニケーション学

加藤春菜 (二年生)